

# サロン通信

## 第9号



R2.8.27 発行

発行元

三条市社会福祉協議会

地域福祉係

電話:0256(33)8511

FAX:0256(33)3004

### つながりを絶やさないために

今年の夏は、花火大会や夏祭りも中止となり、例年になく静かにのんびりと過ごした方も多かったのではないのでしょうか。

5月にいったん収束したと思われた新型コロナウイルスですが、残念なことに6月中旬以降、再び国内で感染が拡大してきています。

新潟県でも、感染が拡大しており、県は7月31日の時点で、「注意報」を発令しました。

緊急事態宣言の解除後は、マスクの着用や手洗い・消毒、各自の健康管理、三密（密閉・密集・密接）の回避等を徹底した中で、ほとんどのサロンが活動を再開されています。

しかし、またもや感染が拡大するにつれて、せっかく活動を再開したものの、どういふ形で継続していったものかと戸惑いを感じているところもあるかと思えます。

そこで、今回のサロン通信では、実際に市内のサロンで行われている感染症対策をご紹介します。また、社会福祉法人大阪市社会福祉協議会が作成した「コロナの中でもつながる方法（令和2年7月28日）」を参考・引用し、このような状況であっても、つながりが途切れることなく、お互いの暮らしを気にかけるには、何ができるのかを考えるための参考になるような内容をお伝えしたいと思います。



### 具体的なごじんな対策を つなごうか

市内のサロンでは、安心して活動を運営、参加できるように感染症対策を実施されています。

●非接触型の体温計をサロンの助成金で購入し会場に着いたら、体温を測ってもらおうようにしている。

●体操や会話など、食事以外は必ずマスクを着用するようにしている。

●活動休止分の余った助成金でマスクを購入し、忘れた人に配っている。



●社協からもらった消毒用のジェルを入りに置き、手指消毒をもらっている。

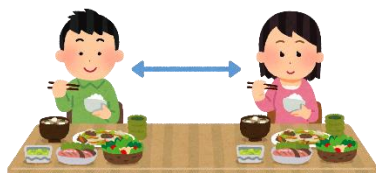
●テーブルやイス、ドアノブなど、共有するものは除菌をしている。



●エアコンをつけている時でも窓を少しずつ開け、換気をしている。

●今まで1部屋で食事をしてきたが、今は2部屋借りて分散して食事をしている。

●食事の時は、対面にならないような座り方を心掛けている。



●今まで手作りの食事を提供していたが、施設利用の人数制限などの関係で調理が難しくなり、再開後は自分でお弁当を持ち寄ることにした。



●お茶菓子は、大皿に盛らず、個包装のものを一人ひとりに配るようになっている。



● ペットボトルの飲み物を購入し、お渡しするようにしている。

● 先回のサロン通信に、感染症対策として「マイカップ」持参が推奨されていたので、取り入れてみたら、感染症対策と同時にスタッフの負担が減ることになり、楽になった。



● 前よりも時間を短縮して活動している。

● 体操の時や座るときにある程度間隔をあげ、密にならないように気をつけている。などです。



## 今だから「考える」ならぬ つながり方の新たな選択肢

サロン活動に向けての思い、感染症対策に関する考えは、人により様々です。また、ガイドラインがあっても、それだけですべてを判断することはできません。代表者だけで悩むのではなく、スタッフの皆さんと話し合い、十分な理解のもとでどう進めるのかを判断しましょう。

今回の事態は、誰もが当事者であり、自分ごとと感じる問題となっています。感染のリスクや、自分が広げてしまう側になるかもしれないという不安を感じるものです。スタッフの方も、まずはひとりの生活者として、自分の家族や暮らしを第一に、健康管理や感染防止に十分留意しながら、決して無理をしないことが原則です。

「実際に集まるか」「集まらないか」の二者択一ではなく、活動の目的を確認しながら

ら、両者を組み合わせた方法もあります。集まるのが難しい人には、訪問してみるとか、食事会ができないならお弁当をテイクアウト方式で配るなど、孤立を防ぎ、顔を合わせる機会をつくることを柔軟に考えていきたいと思います。

例えば、『休止期間中に、スタッフで手分けをして、参加者に電話をかけ、「コミュニケーションをとり続けていた。』というサロンもありました。』



今までは違う対策への負担感や、十分なふれあいや交流ができないことへの戸惑いを覚えることもあれば、久々の再開から活動の大切さを実感したり、参加者とスタッフの間で心温まるやりとりがあるかもしれません。やりきれない思いを言葉にすることも大切ですが、問題点だけでなく、今できるこ

と・これから改善できる可能性があることにも目を向け、お互いをねぎらうことを心がけましょう。参加者から寄せられた嬉しい声や、良かった点についても共有することが次の力になります。

今できること、そして今後に向けて必要なことを、無理のないタイミングでできることから考えていきたいと思います。

思い悩んだら、ぜひ社協の職員にもご相談ください。必要な検討や話し合いを進める一助になれば幸いです。

### 編集後記

やりたいことができないって、辛いものですね。皮肉なことにも、新型コロナウイルスのお陰(?)で、今まで「当たり前」だと思っていた生活がいかに幸せなものだったかと気づかされました。サロン活動の「当たり前」が早く戻りますように…(W)

